

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成 26 年 4 月 17 日 (木) 15:30 ~ 16:30 第一会議室

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶 — 須藤健一 (館長) —

2. ニュースリリース — 池谷和信 (広報企画会議長) —

●みんなくの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

3. みんなく映画会
台湾映画鑑賞会 映画から台湾を知る

詳しく
はこちら

台湾映画はその質の高さと台湾社会を描き出す力に満ちあふれています。映画のもつメッセージをより深く理解していただけるような解説つきで、台湾映画鑑賞会を4回に渡って開催いたします。日本植民地時代から現代までの台湾社会の状況や歴史経験を、台湾映画のダイナミックで繊細な映像を通してお楽しみください。



場 所：国立民族学博物館 講堂

定 員：450名 (先着順/申込不要/参加無料・要展示観覧券)

日 時：13:30~ (13:00開場)

司会・解説：野林厚志 (国立民族学博物館 教授)

主 催：国立民族学博物館

協 賛：台湾文化部「台湾文化光点計画 (supported by Dr. Samuel Yin)」

協 力：台北駐日経済文化代表処・台北文化センター、福岡市総合図書館、中影份有限公司、萬仁電影有限公司、株式会社マグザム

第1回「村と爆弾」(原題：稻草人)

日 時：4月29日 (火・祝)

第2回「超級大国民」(原題：超級大國民)

日 時：5月6日 (火・振休)

第3回「童年往事 時の流れ」(原題：童年往事)

日 時：6月8日 (日)

第4回「海角七号 君想う、国境の南」(原題：海角七號)

日 時：6月14日 (土)

— 野林厚志 (文化資源研究センター・教授) —

4. 企画展
みんなくおもちゃ博覧会
— 大阪府指定有形民俗文化財 時代玩具コレクション

詳しく
はこちら

本コレクションは、江戸時代から平成にかけての日本の玩具史を網羅しており、国内の玩具コレクションのなかでも有数の規模を誇ります。この膨大なコレクションを今回は「ブリキ製玩具」、「ボード玩具」、「マスコミ玩具」、「カード玩具」という4つのテーマに沿って紹介します。本展示では5万6千点を超えるコレクションから600点を選び抜き展示します。

日 時：2014年5月15日 (木) ~ 8月5日 (火)

場 所：国立民族学博物館 企画展示場

観覧料：一般 420円 / 高校・大学生 250円 / 小・中学生 110円 (全て本館展示と共通)



マスコミ玩具
「UFO ロボグレンダイザー」

— 日高真吾 (文化資源研究センター・准教授) —

5. 国際フォーラム 世界の博物館2014

詳しく
はこちら

独立行政法人国際協力機構（JICA）から委託をうけ、滋賀県立琵琶湖博物館と共同で、世界各地の博物館専門家を対象とした集団研修「博物館学コース」を実施しています。今年度の参加者は、ジャマイカ、ミャンマー、エジプト、パレスチナの4カ国から、10名の参加者を予定しています。この機会に、これらの国々の博物館事情に触れ、あわせて博物館の可能性を考えることを目的に、公開フォーラムを開催いたします。

日時：2014年5月31日（土） 13:00～17:15（予定）

場所：国立民族学博物館 第5セミナー室

定員：先着70名（要申込／参加無料）

主催：国立民族学博物館

滋賀県立琵琶湖博物館／独立行政法人国際協力機構



— 園田直子（文化資源研究センター・教授） —

6. みんなくワールドシネマ マイネーム・イズ・ハーン

詳しく
はこちら

今回はインド映画「マイネーム・イズ・ハーン」です。インドからアメリカに移住したアスペルガー症候群を患うイスラム教徒のインド人のリズワン・ハーンが、9.11テロ以降に顕著になった差別と偏見を乗り越えるまでの愛と勇気の旅物語を通して、異文化に生きる人々について皆さんとともに考えていきたいと思えます。

日時：2014年5月31日（土） 13:00～16:30（開場 12:30）

場所：国立民族学博物館 講堂

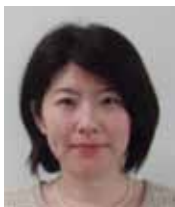
定員：450名（先着順／申込不要／参加無料・要展示観覧券）

※入場整理券を10:00から講堂入口にて配布いたします。



— 池谷和信（広報企画会議議長） —

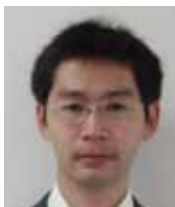
7. 新任教員挨拶



新任教員

松尾瑞穂（先端人類科学研究部・准教授）

総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。新潟国際情報大学情報文化学部准教授を経て、2014年4月現職。インドにおけるジェンダーと生殖実践を専門とし、特に生殖医療技術とカースト／民族アイデンティティについて研究している。



吉岡乾（民族社会研究部・助教）

2012年9月に東京外国語大学で博士号（学術）を取得。2013年4月より日本学術振興会特別研究員PD。本年4月1日付で国立民族学博物館助教に就任。ブルシャスキー語、ドマーキ語といった、パキスタン北部の言語をフィールド調査。専門は記述言語学。

・南太平洋のサンゴ島を掘る—女性考古学者の謎解き（印東道子 著）臨川書店

— 印東道子（民族社会研究部・教授） —

・アンデスの文化遺産を活かす：考古学者と盗掘者の対話（関雄二 著）臨川書店

・平和の人類学（小田博志・関雄二 編）法律文化社

— 関雄二（研究戦略センター・教授） —

・中国の民族文化資源—南部地域の分析から（武内房司・塚田誠之 編）風響社

— 塚田誠之（研究戦略センター・教授） —

9. 研究こぼれ話

「イメージの力」 デジタルビューアの紹介

4月は先端人類科学研究部・准教授の丸川雄三がお話をします。

専門は連想情報学による文化情報発信手法の研究。これまで手掛けた主なサービスは、『文化遺産オンライン』、『国立美術館遊歩館』、『想-IMAGINE 早稲田大学演劇博物館』など。

現在、国立新美術館で開催中の「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」に設置しているデジタルビューアをご紹介します。

— 丸川雄三（先端人類科学研究部・准教授） —

10. お知らせ

研究情報展示システム

本館の研究活動を、来館者に紹介するため、大型のタッチパネルモニタを用いた情報提供システムを構築し、多機能端末室に設置しました。また、車イスの利用者への利便性の考慮と、他の場所での情報提供に活用できるように小型の装置も導入しました。

このシステムでは、本館の研究活動を、共同研究、機関研究、連携研究などの切り口から表示出来るようにするとともに、キーワードからも探せるようにしています。

— 野林厚志（文化資源研究センター・教授） —

